第３章　第４次計画策定後の学校・行政の取組・成果・課題

調布市では、「第４次調布市子ども読書活動推進計画」に基づき、「こどもの発達段階に応じた読書環境の整備・充実」「家庭・地域・学校・行政の連携と相互協力」「こどもの読書活動の普及・啓発」「読書で「生きる力」を育む」を目標に、こどもの読書活動を推進してきました。

市立小学校・中学校の学校図書館では、令和５年度に、中学校の学校司書の勤務日を年１７２日から年２１５日へ変更し、学校司書が、読書推進企画等に取り組みやすい勤務環境を整えました。また、各校で、休み時間や放課後を活用した様々な読書に関する行事を実施する等、こどもが本に親しむ機会をつくりました。

市立図書館では、令和元年度末から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、おはなし会等の中止や参加人数の制限を行っていました。令和５年５月に、新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行したため、令和６年度からは、平常時のサービスを実施しています。令和７年度には、「第５次調布市こども読書活動推進計画」の策定に向けて、市内に在住又は市内の学校に通うこどもや保護者を対象とした「子どもの読書活動についてのアンケート」調査を実施し、こどもの読書状況やニーズを把握しました。

他の施設においても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた時期はありましたが、本に関連した事業の実施や、市立図書館と連携した読書環境の整備など、概ね計画どおりに取組を実施しました。

「第４次調布市子ども読書活動推進計画」期間（令和５年度から令和８年度まで）に実施した取組に対する評価、成果、課題は次のとおりです。

・取組に対する評価基準

Ａ：実施した取組において、予定した以上の成果が得られた。

Ｂ：実施した取組において、予定した成果が得られた。

Ｃ：実施した取組において、あまり成果が得られなかった。

Ｄ：取組を実施しなかった。

・第５次計画での取組の方向性

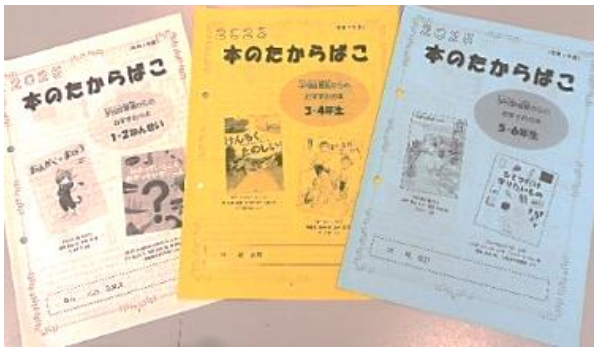
拡充・継続・縮小・削除

Ⅰ　市立小学校・中学校

市立小学校・中学校では、こどもの豊かな心と確かな学力の育成のため、年齢や発達段階に応じた読書環境を整備しています。図書主任又は司書教諭を中心に、授業での学校図書館の活用や、読書に関する様々な事業などを実施し、読書活動を推進しています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)読書活動推進計画の作成と実施	B	継続	○各校は学校図書館全体計画※及び年間指導計画を作成し、読書推進事業の実施状況を検証しました。 ▲学校図書館全体計画及び年間指導計画の作成及び実施状況の検証を継続し、成果と課題を把握することで、改善策や新たな計画の立案を行う必要があります。（第４次計画からの継続課題）
(2)学校図書館の運営と環境整備	B	継続	○校長の指示のもと、図書主任又は司書教諭を中心に、学校図書館担当教員・学校司書・その他の学年主任、教科主任等の教職員の協議の場である学校図書館運営委員会※を設置し、連携体制を整備しました。 ○児童生徒の図書委員会を可能な限り複数の担当教職員で指導し、活発に活動できるよう努めました。 ○保護者や地域住民によるボランティアの協力を得て、読み聞かせ等の読書活動を実施したほか、学校図書館の環境整備を推進しました。  読み聞かせボランティアによるおはなし会

			▲教育課程の展開に寄与し、児童生徒の興味や関心にこたえ､知識が身に付けられるよう、さらなる図書資料の充実が必要です。 ▲学校生活の中で児童生徒が調べ学習を効果的に進め、図書館資料に親しむことができる環境を整える必要があります。 ▲学校のホームページに学校図書館を紹介する等、広報活動をより一層充実させる必要があります。
(3)学校司書の配置と研修の充実	B	拡充	○小学校の大規模校や、中学校の図書館活用促進のため、学校司書の適正配置に努めました。また、学校司書の勤務日数を１７２日から２１５日に増加させたことで、読書推進企画等の充実につなげました。 ○図書主任又は司書教諭との合同研修の実施等により、学校司書の選書※能力や授業をサポートする資質の向上に努めました。 ▲全校の図書主任と学校司書が参加する学校図書館運営連絡協議会※で、課題や情報を共有する研修の充実が必要です。
(4)学校図書館支援センター機能※の活用	B	継続	○教育会館内に学校図書館支援センター機能を設け､学校図書館のスムーズな運営のため、連絡会・研修会の開催や学校司書の相談、各機関への橋渡しを行いました。 ▲学校図書館を利用したこどもが市立図書館の利用者へとつながっていくために、引き続き指導室が中心となり、学校図書館支援センター機能の活用により学校図書館と市立図書館及び各機関との連携等を図る必要があります。 ▲全小・中学校の図書主任と学校司書が参加する学校図書館運営連絡協議会※で、各学校における学校図書館の活用状況を共有するとともに、課題等を協議することで、全小・中学校一体となって学校図書館の活用を推進することが必要です。

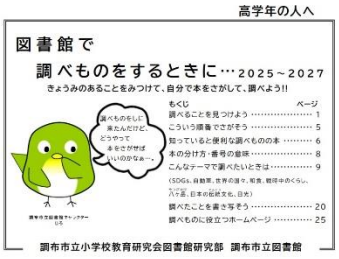
(5)読書の時間の確保と計画的な読書活動の推進	B	継続	○多くの小・中学校で、朝の一斉読書の時間や図書の時間等、学校生活の中で児童生徒が本を読むための時間の確保に取り組みました。 ○第六中学校では、全ての教科で学校図書館を使用する授業に取り組み、図書館活用を推進しました。 ○読書週間や読書月間の設定、「子ども読書の日」※の行事や集会、休み時間や放課後を利用したおはなし会、読書クイズ、ブックリスト「本のたからばこ」(小学校)、「ほんとのであい」(中学校)の作成等、読書活動活性化のための様々なプログラムを提供しました。  「本のたからばこ」表紙  布田小学校「読書ビンゴ」

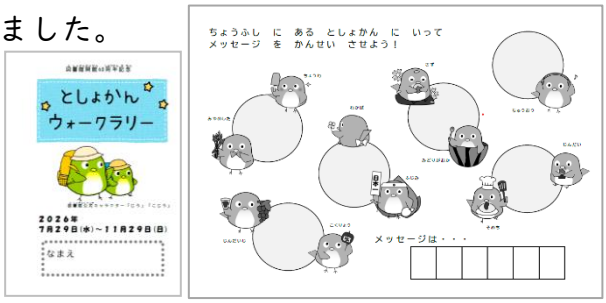
			▲教員や学校司書、保護者が、読書の時間に、読み聞かせ、ブックトーク※、ストーリーテリング※等を取り入れることで、児童生徒に本の楽しさを伝え、本への関心を更に高める必要があります。 ▲絵本から読み物へと読む力を向上させ、文学作品・科学読み物等につなげることや、全ての学習への興味・関心を広げて、知的好奇心を高め、読書の質を高める取組が必要です。（第４次計画からの継続課題）
(6)学習支援機能※の充実	B	継続	○小学校の調べ学習では、百科事典・国語辞典・図鑑・年鑑の使い方を一年生の入門指導から中学年・高学年へと段階を踏んで指導しました。 ○中学校では、修学旅行の事前学習、職業、国際理解、オリンピック・パラリンピック等、学習のテーマにあわせて資料を提供しました。 ▲小学校の調べ学習については、調布市立小学校教育研究会学校図書館部※と市立図書館が合同で作成したリスト「図書館で調べものをするときに…」※の活用等により、一層充実させる必要があります。 ▲各教科等において資料を活用することに加え、委員会活動、部活動等の教育活動においても、学校図書館の学習支援機能を継続して活用する必要があります。
(7)特別な支援を必要とする児童生徒に配慮した読書活動の充実	B	継続	○児童生徒の障害の状態や特性に配慮した図書を選定し、教室に備え、こどもの本への興味を引き出しました。 ▲それぞれの発達段階や障害に応じた絵本を選定し、読み聞かせ等の読書活動を充実させる必要があります。

(8)学校図書館資料の組織化と電子管理	B	継続	○学校図書館の資料の組織化を進め、相互利用できる体制を更に充実させていくために、学校図書館間の搬送を円滑に行いました。 ○令和７年度の図書館パソコン更新時のコミュニケーションツール導入により、全校の教諭・学校司書間の連絡が迅速化し、授業前の打ち合わせやオンライン会議などで連携が促進され授業支援や読書活動が充実しました。 ▲調べ学習や教科書単元に対応した検索機能の充実が必要です。
(9)ボランティアとの連携・協力	B	継続	○多くの小・中学校で、保護者等によるこどもの読書推進に関わるボランティア活動が、活発に行われました。 ▲司書教諭や学校司書をコーディネーター役として、様々なボランティア活動を実践する保護者等との協力関係を保つ必要があります。 ▲学校と教育委員会指導室、市立図書館、教育委員会各部署との連携を強化して情報交換に努め、こどもの読書活動に関わる研修会や交流会を開催する等、今後も計画的・継続的に活動を支援する必要があります。

2　市立図書館

市立図書館は、市民であれば誰でも利用することができる開かれた場所です。こどもの生活に根ざした施設として、読書を楽しむことや、調べものの解決ができるよう支援しています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)選書※の重視と蔵書の充実	A	拡充	○「調布市立図書館児童資料の収集等に関する方針」に基づき、資料の選定を行い、質の高い蔵書構成となるよう努めました。 ○「調布市立図書館　資料の収集・保存・除籍に関する基本的方針」に「ＹＡ（ヤングアダルト）※図書」の項目を追加しました。 ▲ＹＡ（ヤングアダルト）世代に向けた蔵書の充実が必要です。
(2)情報サービスの充実	B	継続	○パスファインダー※No.6「調布の花火」を作成しました。 ▲こども自身が、図書館で課題を解決できるような支援が必要です。
(3)『このほんよんで！第２版』※等の刊行物・リスト類の充実	A	継続	○継続してリストを作成することにより、図書館のおすすめ本を手に取ってもらう機会をつくりました。 ○「図書館で調べものをするときに…」※に記載している調べ方の説明や掲載資料を見直し、改訂しました。  高学年の人へ 図書館で 調べものをするときに…2025～2027 きょうみのあることをみつけて、自分で本をさがして、調べよう!! もくじ　ページ 調べることを見つけよう …… 1 こういう順番でさがそう …… 5 知っていると便利な調べものの本 …… 6 本の分け方・番号の意味 …… 8 こんなテーマで調べたいときは …… 9 （SDGs、自動車、世界の国々、和食、戦時中のくらし、八ケ岳、日本の伝統文化、自然） 調べたことを書き写そう …… 20 調べものに役立つホームページ …… 25 調布市立小学校教育研究会図書館研究部　調布市立図書館 「図書館で調べものをするときに…」表紙 ▲『このほんよんで！　第２版』と『小学生にすすめる本　第２版』※の内容を見直す必要があります。 ▲図書館ホームページから、リスト内容を閲覧できる取組が必要です。（第４次計画からの継続課題）

(4)おはなし会の充実	A	継続	○中央図書館では、土曜日のおはなし会を定例化し、平日には参加できなかった利用者層の参加を促しました。また、一部の分館でも不定期で、土・日・祝日のおはなし会を実施しました。 ▲全館で、土・日・祝日のおはなし会の実施を検討します。 ▲学童クラブや放課後等デイサービス等、こどもが集まる場所や施設に、おはなし会への参加を働きかける必要があります。(第４次計画からの継続課題)
(5)こどもを対象にした事業	A	継続	○「小学生読書会」※においては、見学会を実施し、会員増加に努めました。 ○「シールラリー」や図書館開館 60 周年記念イベント「図書館ウォークラリー」等、こどもを対象にした事業を実施し、利用につなげました。  「図書館ウォークラリー」台紙 ○調布市制７０周年記念「じろ※のおめかしプロジェクト」を実施し、おはなし会の参加への動機づけや、子ども室の地域資料や展示コーナーの周知につなげました。 ○ＹＡ（ヤングアダルト）※世代を対象に講演会を実施しました。 ○リスト「中学生にすすめる本」の表紙デザインを中学生から募集し、図書館への興味・関心を高め、利用促進を図りました。 ▲「ぶちねこ便」※を継続するため、会員の確保が必要です。(第４次計画からの継続課題) ▲引き続き、こどもたちが読書に親しむきっかけとなる事業を企画し、継続していく必要があります。

(6)こどもの本に関わる大人を対象にした事業	A	継続	○保護者や就労している方が参加しやすいよう、「子どもの本に親しむ会」※を土曜日に開催し、参加者の増加に努めました。 ○市民を対象に「絵本の読み聞かせ講座」※を開催し、集団に読み聞かせをする際の絵本の選び方や読み聞かせのポイントを紹介しました。また、図書館ホームページにも読み聞かせのポイントを掲載しました。  「絵本の読み聞かせ講座」の様子 ▲「絵本の読み聞かせ講座」や「読み聞かせ交流会」※の、日程や内容の精査が必要です。
(7)ブックスタート※事業の充実	A	継続	○ブックスタートパック※の内容を精査し、図書館利用が初めての方や子育て中の方に、わかりやすい案内になるよう努めました。  ブックスタートパックの内容 ▲図書館を利用していない家庭への利用促進が必要です。（第４次計画からの継続課題）
(8)保育所・幼稚園との連携の充実	A	継続	○定期的におはなし会を実施する保育所が増加し、より多くのこどもたちに絵本の世界の楽しさを提供しました。 ▲図書館を利用していない保育所や幼稚園へ、団体貸出やおはなし会の実施の働きかけが必要です。

(9)学校との連携の充実	A	継続	○市立小学校の小学３年生の全児童を対象に、「図書館ガイダンス」※を実施しました。 ○市立図書館の職員と調布市立小学校教育研究会学校図書館部※が協働し、「夏休みにすすめる本」及び「図書館で調べものをするときに…」※を発行しました。 ○市内の中学校や高校と連携して、「中学生・高校生対象図書館アンケート」を実施し、ＹＡ(ヤングアダルト)※世代のニーズを調査・把握しました。また、学校で実施されたビブリオバトル※を見学することで、ＹＡ（ヤングアダルト）世代に読まれている本を把握し、展示やイベント企画の参考にしました。 ○教育支援センター「太陽の子」※及び学びの多様化学校分教室「はしうち教室」※に通う児童生徒を対象に、ブックトーク※や図書館利用案内を行いました。 ○宮の下分館や若葉分館の整備に向けて、近隣の学校に通う小学生・中学生及び近隣に住む高校生世代以上を対象としたアンケートを実施しました。また、近隣の中学校の図書委員と意見交換会を実施し、ニーズの把握に努めました。 ▲団体登録がない小学校や、連携の少ない中学校・高校に、利用を促す必要があります。 ▲調べ学習・探究学習に対応できる資料をそろえ、充実させる必要があります。

(10)こども関連施設等との連携の充実	A	継続	○教育総務課が所管する、市立小学校児童への早朝見守り事業「みまモーニング」※に、リサイクル資料を提供しました。 ○児童館や学童クラブで、書架整理やリサイクル資料の提供を行い、こどもたちの身近な読書環境の整備に努めました。また、新たに設置された学童クラブに『小学生にすすめる本　第２版』※を送付しました。 ○こども関連施設等における出張おはなし会の実施や、図書館職員の講師派遣を通して、こどもと保護者が図書館以外でも本を楽しむ機会をつくりました。 ▲団体貸出を推進し、より多くの施設と連携する必要があります。
(11)展示の充実	B	継続	○映画のまち調布シネマフェスティバルで上映される映画に合わせた本の展示を行い、こどもが様々なテーマの本に触れる機会をつくりました。 ○中学生や高校生が作ったおすすめの本のポップやポスター等を展示しました。 ○東京都立調布特別支援学校に通う児童生徒が描いた好きな本のポスターや、本の展示を行いました。  東京都立調布特別支援学校の児童生徒が描いたポスターの展示 ▲こどもから需要のあるテーマや、季節や社会の動きに合わせたテーマなど、こどもが幅広い分野の本に出会える展示を行う必要があります。

(12)図書館利用に障害のあるこどもへのサービスの充実	B	継続	○東京都立調布特別支援学校に通う児童生徒を対象におはなし会を行い、本の世界を楽しむ機会を提供しました。 ○LL ブック※の出版情報に留意し、積極的に購入しました。 ○リスト「夏休みにすすめる本」に掲載している作品のマルチメディア DAISY 図書※を作成しました。 ○国際交流センター※が主催する、外国人の保護者が未就学児と参加できる日本語教室「だっこらっこくらぶ」※にて、図書館の利用案内とおはなし会を行いました。  「だっこらっこくらぶ」でのおはなし会 ○調布市学校安全･安心情報配信システム「すぐーる」で、マルチメディア DAISY 図書の広報を行いました。 ○利用者向けに、マルチメディア DAISY 図書の使い方を簡単にまとめたガイドを作成しました。 ○英語を中心に、中国語や韓国語の資料を充実させました。 ▲日本語を母語としないこどもが読める外国語資料のさらなる充実が必要です。 ▲配慮を要するこどもを支援するため、布の絵本※やマルチメディア DAISY 図書等の資料のさらなる充実が必要です。 ▲図書館利用に障害のあるこども向けの資料やサービスについて、必要とするこどものもとへ届けられるよう、広報に努め、継続利用につながるよう工夫する必要があります。(第４次計画からの継続課題)

(13)利用促進・広報活動	A	継続	○事業を実施する際に、調布市公式 SNS や、調布市学校安全・安心情報配信システム「すぐーる」での情報発信を行い、参加者の増加につなげました。 ○リスト「中学生にすすめる本」を、市立中学校に通う生徒のタブレット端末に配信しました。 ○中央図書館内に、常設のＹＡ(ヤングアダルト)※コーナーを設置しました。 ▲SNS 等を活用し、図書館利用の少ない中学生や高校生の利用を促す必要があります。(第４次計画からの継続課題) ▲図書館を利用していない潜在的利用者への効果的な広報の方法について検討する必要があります。(第４次計画からの継続課題)
(14)職員の育成	B	継続	○日本図書館協会主催の児童図書館員養成専門講座※や、東京都多摩地区児童サービス研究会による外部研修に参加し、児童サービスに関する知識や技術を習得しました。 ○職員が、「絵本の読み聞かせ講座」※や、東京都立図書館主催の講座等の講師を務めました。 ○中高生世代を中心に概ね 13～19 歳を対象としたサービスの検討・実施をする「ＹＡ(ヤングアダルト)※サービス検討スタッフ」が発足しました。 ○長く児童サービスに携わった元職員を講師に、研修を行いました。 ▲こどもの読書環境づくりを担う人材を育成するため、職員研修を継続して実施する必要があります。 ▲長く児童サービスに携わった職員が培ってきた知識や、ノウハウの引き継ぎができる体制づくりを行う必要があります。

3　幼稚園

幼稚園では、幼児期の成長・発達に配慮した質の良い絵本を選び活用することで、こどもの読書習慣の形成を図っています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)保護者支援の充実	C	継続	○家庭で絵本の読み聞かせをすることが、親子のふれあいの時間になり、幼児の心の栄養になることを伝える等、保護者への啓発に取り組みました。 ○保護者による家庭での絵本の読み聞かせの継続・充実の支援に取り組みました。 ▲必要な方への個別の声掛けは行っていますが、一部の保護者への啓発に留まっているため、全体への啓発を行う必要があります。 ▲市立図書館職員を講師にした保護者対象の絵本の読み聞かせ講座を検討しましたが、コロナ以後から実施できていません。
(2)他機関との連携の充実	D	削除	▲以前は市立図書館から長期休み前に本を借りていましたが、幼稚園の本が充実してきており、近年は借りることはなくなりました。

4　保育施設

保育施設では、一日の活動のなかで絵本の読み聞かせを実施し、こどもが絵本に親しむ機会を提供しています。また、市立図書館を訪問し、団体貸出やおはなし会を実施する施設もあります。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)読書環境の整備・充実	C	継続	○市立図書館のリサイクル資料を有効活用する等、保育所の読書環境を整備しました。 ▲市立図書館のリサイクルコーナーにこどもに合う本がなく、利用しなかった園もありました。 ▲園内の絵本が充実しているため、市立図書館資料を活用した読書環境の整備を実施しなかった園がありました。
(2)他機関との連携の充実	B	継続	○おはなし会や団体貸出等、市立図書館と連携を図りました。 ▲園内の絵本が充実しているため、市立図書館からの資料貸出などを利用しなかった園がありました。
(3)保護者への普及・啓発事業の実施	C	継続	○こどもがわらべうたを歌ってもらったり、絵本を読んでもらったりすることが、親子間で様々な感動を共有できる機会となり、親子関係の育みのひとつとなることを園だより等で保護者に伝え、読書の啓発に努めました。 ▲園だよりで絵本やふれあい遊び等の紹介はしていますが、わらべうたについてはスペースの都合で数年に一度しか掲載できない園がありました。
(4)保育施設に対する図書館の利用促進	D	継続	▲市立図書館の団体貸出を積極的に利用している園がある一方で、利用していない園もあります。今後も、市立図書館と連携し、利用を促していく必要があります。

5　児童館

　児童館では、定期的に市立図書館職員やボランティアによる絵本の読み聞かせを実施し、こどもが様々な本に出会う機会をつくっています。また、館内に図書室を設置し、こどもが本に親しむ場を提供しています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)他機関との連携の充実	A	継続	○地域のおはなしのボランティアの方に依頼し学童クラブで月に１回（夏休みは週１回程度）おはなしの会を実施しました。 ○多摩川児童館にて、読み聞かせボランティア団体「ちょうふ読み語りの会」による、絵本の読み聞かせを実施しました。 ▲おはなし会について、現在は学童クラブ児童の参加が中心となっているため、今後は、児童館の一般来館児童の参加も注力していきます。また、開催の頻度やタイミング等スケジュールについても、よく検討のうえ実施します。
(2)読書環境の整備・充実	B	継続	○市立図書館からのリサイクル資料を活用し、図書室に置く本の見直しを行いました。 ○市立図書館職員から、児童館の図書室の本の処分の基準や魅力ある図書スペースとするためのアドバイスをもとに、図書室の整理を行いました。 ▲乳幼児親子、小学生、中高生世代等、利用者が幅広いため、それぞれの利用者のニーズに応えることができるような図書室の充実が必要です。（第４次計画からの継続課題）
(3)本を活用した事業の充実	B	継続	○子育てひろば事業※にて、市立図書館の職員による読み聞かせを実施しました。  図書館職員による出張おはなし会の様子

			○折り紙工作をする際に、市立図書館の本を借りてきて、本を見本としながら工作づくりを行い、こどもの創造する力を育みました。 ▲市立図書館職員による読み聞かせに、より多くの参加を呼び掛けるため、年間の予定を立てる必要があります。

6　公民館

　公民館では、市立図書館と連携した本に関する事業や、子育て支援のための家庭教育講座※の中で絵本をテーマとした学びの講座を実施しています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)保護者や市民を対象とした普及・啓発事業の充実	B	継続	○子育て支援のための家庭教育講座※で、絵本をテーマとした学びの講座を継続して実施しました。 ○地域文化祭ではスペシャルおはなし会、青少年教育講座※では、図書に関する講演会や科学実験と共に科学を題材にした絵本のおはなし会を実施し、本を楽しむ機会をつくりました。  科学を題材にした絵本のおはなし会の様子 ▲こどもの成長に合わせた本や絵本を学習することをテーマとする成人学級※発足の支援が必要です。（第４次計画からの継続課題）

7　放課後子供教室事業「あそビバ（旧ユーフォー）」※

放課後子供教室事業「あそビバ」では、小学校内又は近隣の施設を活用し、こどもが自由で安全に利用できる遊び場・居場所を提供しています。本を活用した遊びや読み聞かせの実施など、こどもが本に親しめる場をつくっています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)保護者や地域との連携の充実	B	継続	○地域の方からのリサイクル資料を活用し、様々なジャンルの本を、こどもが手に取れるよう努めました。 ○ボランティアによる読み聞かせを実施しました。 ▲年齢層に合わせた本の充実が必要です。
(2)本を活用した事業の充実	B	継続	○工作・遊び等の活動の企画段階において、「あそビバ」※職員が工作についての本を参考にしました。 ○定期的に開催している工作教室で、物づくりの楽しさを伝える本を活用し、こどもの創造する力を育みました。 ▲高学年の児童の利用につながるようなプログラムの充実が必要です。（第４次計画からの継続課題）

8　子ども家庭支援センターすこやか

「子ども家庭支援センターすこやか」は、子育てを総合的に支援するための拠点として、様々な事業を展開しています。遊びに来たこどもが自然に本に手を伸ばせる環境づくりのために、乳幼児や小学生に向けて図書コーナーを設置しています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)読書環境の整備・充実	B	継続	○地域の公益活動として、絵本ドライブ※（絵本のリサイクル循環）を実施しました。市立図書館のリサイクル資料も含めて、クリスマス会などで利用者に配布し、絵本を読むことの楽しさを広げました。 ○市立図書館から団体貸出した絵本や紙芝居を、トワイライトステイ※やショートステイ※の預かり中に使用しました。 ▲待合コーナーにある本の処分の基準の検討が必要です。
(2)保護者への啓発事業の充実	B	継続	○乳幼児交流事業「コロコロパンダ」※において、市立図書館職員によるブックスタート※の講話を実施しました。  「コロコロパンダ」の様子 ▲家庭等で絵本の読み聞かせをすることは、親子のふれあいの時間になり、乳幼児の心の栄養になることを伝える等、保護者への啓発を推進する必要があります。（第４次計画からの継続課題）

9　保健センター

保健センターでは、市民の健康を維持・増進するために様々な保健事業を直接又は医療機関などに委託して提供しています。母子保健に関する事業では、こどもが絵本に触れる機会を提供しています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)ブックスタート※事業の充実	B	継続	○集団健康診査等で、保健センターに来所する親子に、市立図書館推薦の絵本のリストの配付を継続しました。 ○一人一人に絵本を紹介し贈呈する、妊婦への絵本ギフトを継続して実施しました。絵本については、市立図書館と連携して選定しました。 ▲家庭で、乳幼児と読み聞かせを通してふれあったり、本の楽しさを味わう経験をもったりすることの大切さを啓発する必要があります。（第４次計画からの継続課題）

10　子ども発達センター

子ども発達センターでは、発達に遅れやかたよりのある、又はその心配のあるこどもと家族を対象に、一人一人のこどもの必要に応じた療育を行うとともに、子育て家庭を支援しています。通園事業の活動の一環として、絵本の読み聞かせや布の絵本・布の遊具※を使った遊びを実施しています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)読書環境の整備・充実	B	継続	○小物を取り外せる布の絵本※等、発達に遅れやかたよりのある児童の興味や、発達段階に合った資料を活用しました。 ○市立図書館と連携し実施しているおはなし会や、団体貸出の利用を継続し、こどもが本に親しむ環境の充実を図りました。 ▲発達に遅れやかたよりのある児童に適した本を選定する必要があります。（第４次計画からの継続課題）

11　青少年交流館

青少年交流館は、青少年が交流する居場所として、共有スペースやパソコンコーナーを開放しています。また、こどもが本をいつでも手に取ることができるよう、図書スペースを設けています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)読書環境の整備・充実	C	継続	○館内３か所に図書スペースを設け、約２００冊を収蔵しました。 ○『地球の歩き方　調布市』（２０２５年、地球の歩き方）をおすすめ図書として、パソコンコーナーに設置しました。 ▲本を手に取るこどもが少ないため、図書スペースの設置場所や図書の陳列方法を検討する必要があります。 ▲図書スペースには古いマンガや児童書が多いため、本の見直しや定期的な入れ替えが必要です。

12　東京都立調布特別支援学校

調布特別支援学校では、こどもの将来の自立と社会参加に向けて、主体的に生きる力を育てることを目標に、就学前から高等部への移行を見据えた教育を行っています。小・中学部設置の特別支援学校として、一人一人に合った読書活動を展開しています。

取組項目	評価	第５次計画	○成果・▲課題
(1)他機関との連携の充実	B	継続	○学校と市立図書館が連携して、こどもたちの読書習慣の形成に取り組むことができました。